

## 企業研修

(テーマタイトル) 行動会計学 (行動科学と会計学の融合)

「数字は経営の共通言語であり、その数字を蔑ろにする個人や会社は必ずどこかで躓く」

これが私達の共通認識です。

これを証明するかのように、毎年発表される自殺者の実に8割は金銭が絡んだものであり、企業倒産の主要原因に必ず登場してくるのが経理・財務の無理解や知識の欠如なのです。

もちろん、数字を生業とする私達にも責任があるといったことについては十分理解しているつもりです。

たとえば、無味乾燥の数字教育を無理に強要したり、数字教育を受けていない他の部門の人達に対して専門用語を使って煙に巻こうとする専門家や経理部門の「コマッタちゃん」の存在です。

これでは、数字が経営の共通言語になりようがないのです。

よって、これから私達は企業研修を通して自分達の力が試される時がやってきたのです。その特徴は既存の簿記。会計理論に行動科学を融合させたものになっています。この理論は、経営活動の結果に至るまでの行動には「動機付け」が必要である、ということです。であるならば、この「動機付け」の理解こそがその後の行動や結果に影響を与える、といったロジックが成り立つわけです。

人間の行動には「刺激と反応」というものがあって、何かに刺激を受けたからそれに反応する、といった習性があるのですが、その刺激が動機付けと深い関わりがあることが最近の研究によってわかってきたのです。特に経営活動はお客様の購買行動を理解しないとと思うような結果を得ることができないでしょう。

お客様が何に刺激を受けて、その刺激に対してどう反応するのか。

この問い掛けは部門・部署を超えて全社をあげて取り組まなければならない緊急課題なのです。